

認定看護管理者が新たに2名、誕生しました！

日本看護協会は「認定看護管理者とは、認定看護管理者認定審査に合格し、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有すると認められた者」と定めています。私達は「2014年度認定看護管理者教育課程サードレベル」を受講し認定看護管理者認定試験に合格しました。厚生労働省が進めている10年後の2025年度を目標に「地域包括ケアシステム」の構築に向けた変革の時代に将来を見据え、自施設だけではなく、社会が求める組織作りをすることが認定看護管理者の大きな役割だと考えます。サードレベルで学んだように、これまでの経験を概念化することで看護の価値、看護管理の価値、やりがいの確認、新たな看護の価値を創造しなければなりません。そのためにも、認定看護管理者として「論理的思考」「概念化能力」「プレゼンテーション能力」を養うことが求められます。今まで、



副看護部長
湯浅 貴子

経験したことのない私達が苦手とする財務や経営も含めた自施設の組織分析も必要となります。組織分析シデータ化することで自施設を俯瞰し、地域での立ち位置を考えた計画・立案をしなければならぬと考えます。言うほど簡単ではありませんが昨年度サードレベル研修を受け認定看護管理者を取得した仲間とのネットワークを最大限に活用し、最新情報や知識を収集しながら活動していきたいと考えます。

認定看護管理者認定試験を受験するために必要とされるサードレベル研修に出させて頂き、合格するまで支えて頂いた当財団に答えるためにも、持てる力を最大限に活用し、今後は認定看護管理者としての役割を果たしていきたいと考えます。

副看護部長
小坂 寿江



認定看護管理者 副看護部長 湯浅 貴子
副看護部長 小坂 寿江

TOPICS

看護講演会「看護への知的的好奇心と患者への関心を刺激する臨地実習指導」



8月29日(土)、「看護への知的的好奇心と患者への関心を刺激する臨地実習指導」というテーマで吉備国際大学の太湯好子先生に御講演頂きました。先生の話される体験談を聞いて「看護って何てステキな仕事なんだろう」と再認識させられました。先生は「看護の面白さ・楽しさを伝え・見せることで学生に看護の役割や機能を体験させることが出来る」と言われ、臨地の場を生かし楽しく、生き生きと看護をしている看護師を見せることの大切さを感じました。又、学生に指導するという姿勢ではなく、学生とともに看護をさせていただく覚悟、引き受けることが必要と話されました。すぐに出来ることではありませんが、まずは自分が楽しく看護するために患者の声を聴ける人、いえ聴かせて頂ける人になれるよう努力したいと思います。さらに、先生は「誉めるところのない人間は居ない」と言われ「誉めるためにはその人をよく観察すること」と言われ、自分の観察力にも磨きを掛けなければと奮起させられました。誉めることが学生だけでなく、相手を認め、大切にすることなんだと気付かされました。講演後、日頃学生を指導する中で悩んでいることにアドバイスも頂き、これからの学生指導の力となりました。ともすれば、人の出来ないところばかりが見えてしまい、八方ふさがりになりますが自分の出来ないことが見えるようになれば確かに道は開けてきます。看護を、そして学生指導を楽しんで頑張る力を頂いた貴重な時間でした。

N1病棟師長 小幡 陽子

オムツマイスター会議

7月23日(木)に第1回おむつマイスター(以下マイスター)会議を開催しました。

各病棟から選出された、新人マイスター含め約20名が、マイスターの役割やおむつの基本について再学習しました。また、現在病棟で頑張っている点、困っている点を発表し、皆で情報共有を行いました。マイスターから新人マイスターへ問題解決のための提案があったり、日頃の取り組みを労ったりと和やかで生産性の高い会議となりました。会議は2ヶ月毎に行い実際の事例を提示しながらディスカッションを行うことで活発な会になるよう計画しています。今後もオムツを必要とする人の尊厳を守るケア、自立を助けるケア、快適性を守るケアなど排泄ケアとはどうあるべきか、実際の問題に向き合いながら活動を続けて行きたいと考えています。排泄ケアを考える一つのチームとして、院内活動に取り組んでいます。

師長 國米 由美



新人鳴門研修実施 6月26日(金)～27日(土)

1泊2日の新人研修をグランドエキシブ鳴門にて実施しました。この研修では多職種とのチーム医療の重要性や社会人としての自覚を認識することを目的としています。



新人宿泊研修に引率として初めて参加させていただきました。入職後、ほとんど同じ職種だけの関わりだった新人が、同期入職の他職種の方と、同じ場所で講義を受けグループで考え、意見を出し合うことで、新しい発見や驚きがあったと思います。緊張の中でも次第に打ち解け、和やかな雰囲気になっていく様子に若い力の柔軟性を感じました。私達の医療現場は個人だけでは成り立たない職場です。みんなの力を集め意見を出し合い、チームで医療に当たらなければなりません。そしてチーム医療を行うためには他職種との横のつながりが大切になります。そのためにもより多くのスタッフが安心して、笑顔で、意欲を持って働くことができる職場にすることが必要です。今は、不安の方が多いと思いますが、1年後、2年後、自分達がどんな目標を持って、どんな風に成長できているかを、頭に描きながら頑張ってもらいたいと思います。私達も出来る限りのサポートをしていきたいと思っていますので、常に笑顔を忘れずに一緒に頑張りましょう。

N2病棟棟長 土居 美和里

新人とはどうあるべきか、社会人とはどういうものか、普段生活している中では学ぶことができない大切な経験をする事ができたと思います。この講義でも一人では社会で成り立つことが出来ないため、人と関わる大切さを学ぶことが出来ました。そして5年後の自分がどうなっているのか考える時間では、1年1年自分がどう変わっていき、成長するかを考えることができ、今の自分と向き合うことが出来ました。(5東新人レポートより抜粋)



今回、GWで他部署の人達と関わり、良い刺激になったと同時に、自分の引込み思案も少し解消できたかと思ます。職種が違うことで考え方も様々あるのだなと感じました。また、医療現場では欠かせない、チームの連携の大切さも学ぶことができました。まだまだ社会人として、未熟な部分がたくさんあると思いますが、楽しく希望を持って働いて成長していきたいという意気込みはあります。1年、1年のキャリアを確実に積んで、決して高い目標は立てられなくても、看護師という職種に誇りを持って、患者さんやご家族を支えたいと思ます。(6西新人レポートより抜粋)



看護就職フェア

7月12日 津山会場
8月9日 岡山会場



【津山会場】

8月9日(日)岡山コンベンションセンター(岡山市北区駅元町)で「看護就職フェア・看護進路ガイダンス」が開催されました。県内の病院や訪問看護ステーション82施設が、求人内容の説明・中高生向けの進路相談や現役看護師による体験発表、看護体験などそれぞれに工夫が凝らされ大盛況でした。津山中央病院もブースを設け、訪問してくれた学生に求人内容や業務また入職後の支援など細かく説明しました。県南での開催でありブースに訪れる人数は少数でしたが、当院のインターンシップに参加した学生が、就職に対しての不安や疑問点など確認、今後進路選択で、看護師への道に進み看護師になりたいと希望を持って参加した中学生の親子などの訪問を受けました。一人でも多くの人に津山中央病院を知っていただき、就職への道に繋がるよう、手ごたえを感じ充実した一日でした。

6階西病棟棟長
采女 佐加江



【岡山会場】

ごんご祭りごんちゃん大賞受賞!

8月1日(土)、毎年恒例の津山納涼ごんご踊りコンテストに今年も当病院職員135名で参加し、ごんちゃん大賞を受賞しました。

僕は津山中央病院に就職するまで、ごんご踊りを知りませんでした。初めて踊ったのは、鳴門研修の時でした。その時は踊りも知らない仲の良い友達も少なく、とても恥ずかしかったのを覚えています。その時、指導してくれた人たちの真剣さと熱心さにとても驚きました。僕はまだほとんど踊れず、なんでこんなに気合がはいっているのかすごく不思議でした。練習を何度か繰り返し、いよいよ本番のごんご祭りの日がやってきました。いろいろな参加チームがいて参加人数の多さにとてもびっくりしました。踊りが始まるまでは凄く踊る区間が長くて踊れるのか不安でした。津山中央病院の順番が来た時には参加者のやる気と熱意がすごく伝わってきました。踊りが始まり途中ですごく疲れてきましたがみんなで優勝目指して頑張ろうという思いから、最後まで一生懸命踊ることができました。看護師、医師、その他の職種の人が一丸となり、一つのことを目指して頑張ることが出来たと思います。優勝こそ逃したものの僕にとっては、凄く良い経験になりました。

手術室 新人看護師
澤田 健太

